

平成26年度 ケア付き青森ねぶた じょっぱい隊 ボランティア活動報告



青森県立保健大学地域連携・国際センター
地域連携科委員会ケア付きねぶた部会

目 次

ケア付き青森ねぶたの紹介、実行委員会との共催	P 1
ボランティア活動 準備編	P 3
ボランティア活動 当日編	P 7
ボランティア活動 後編	P 11
学生の思い・学び	P 14
ケア付きねぶた部会活動概要	P 34

本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動に積極的に取り組んで7年目となります。今年は地域連携科委員会に、教員8名で構成されるケア付きねぶた部会を発足しました。チームで取り組んだ平成26年度のボランティア活動を報告いたします。

ケア付き青森ねぶたの紹介

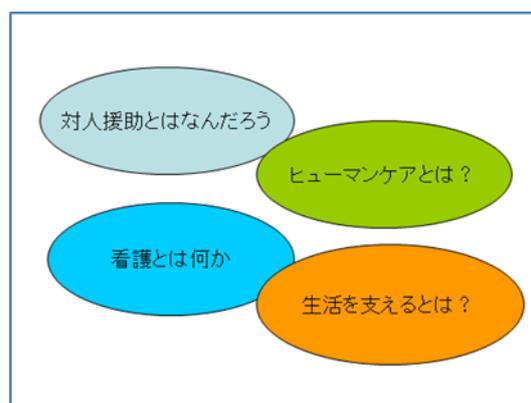
1年生が入学すると、4月に開講される4学科合同授業「健康科学概論」の中で、ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動について紹介します。これから専門職としての知識や技能を学んでいく学生にとって、この活動を知ることがヒューマンケアを模索する上での原動力になると考えているからです。そして、ボランティア活動の実体験を通して、人として専門職として成長する貴重な機会につながることを願い、ケア付き青森ねぶたの活動を紹介しています。

近年では、本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動を積極的に支援していることを、入学前から知っている学生が増えてきました。そのような学生は、目的意識を持って楽しみにボランティア活動に参加しているようです。また、はじめて知ったという学生も、興味関心を持つ学生が多いようです。

ヒューマンケアを提供できる人材育成

ケアつきねぶたへのボランティア活動を通して、専門職としての知識や技術のみではなく、人間とは何かということに思いを巡らせ、病気や障害を持つ人々の心を感じ取り、人に対して思いやりと温かさを持って接することができるようになって欲しい。感動を味わい感性を磨くことで自分を育てて欲しい、と願っています。

学長 リボウイツン・よし子
平成21年12月1日 公立大学協会60周年 記念シンポジウム
「障害者ねぶた」へのボランティア活動を通しての教育 より



ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊 実行委員会との共催

ケア付き青森ねぶたは平成8年から始まり、全国から参加者を募り年齢や障害の枠を超え青森ねぶたに車いすのまま参加できるよう保健・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって運行され、これまで毎年本学教員10数名及び相当数の学生がボランティア参加してきています。保健・医療・福祉の専門職を志す本学の学生にとって、ケア付き青森ねぶたに参加し障害者や高齢者との交流及び介助を行うことは、貴重な体験であり極めて学習の意義があります。

このため、本学では平成20年度から大学組織として協力しています。地域連携科事業としてボランティア養成講座を開催し、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅰの単位認定科目とするとともに、学生がより積極的にボランティア活動を行うことができる環境を整えています。

昨年度からは、学部協力のもと、ボランティア活動日及び報告会についても、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅱとして単位認定しています。



ボランティア活動 準備編

6月7日（土）：第1回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成26年6月7日（土）11時～12時

場 所：B109教室

参加学生：86名

内 容：講演・体験発表

① 講演

「ボランティアマインドとは」

講師：社会福祉学科 杉山克己 准教授

② 体験発表

発表者：4名（運行班・備品班・設営班）

昨年までの体験内容と感想、今年参加する学生へのアドバイス等を伺いました。

ボランティアの基本的な姿勢・心構え、じょっぱり隊の具体的な活動内容等について理解を深めました。



平成26年度 第1回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	41	5	2	0	46
理学療法学科	6	0	0	0	6
社会福祉学科	18	0	0	0	18
栄養学科	16	0	0	0	16
計	81	5	0	0	86

7月19日（土）：第2回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成26年7月19日（土）10時～11時

場 所：B109教室

テーマ：「ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動結果」

講 師：平川若菜 氏（高齢者総合福祉施設清風荘）他

参加学生：79名



ケア付き青森ねぶたの歴史や取り組み、ねぶた参加者の想いを知ることができ、みんなでじょっぱり隊を盛り上げていこうという意欲につながりました。また、養成講座終了後、じょっぱり隊参加についてのオリエンテーションを実施しました。

平成 26 年度 第 2 回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
看護学科	33	7	0	0	40
理学療法学科	4	0	0	0	4
社会福祉学科	17	2	3	0	22
栄養学科	9	4	0	0	13
計	63	13	3	0	79

ボランティア募集 5月28日(水)～

第1回ボランティア養成講座実施前にチラシ配布や学内ポスター掲示などを行い、ボランティア募集を開始しました。全教職員に対して教職員ポータルサイトで周知をした他、教職員会議で参加を呼びかけたり、ケア付きねぶた部会からボランティア参加の案内をしました。7月10日(木)のボランティア募集締切り時には、学生約70名、教職員約30名の申し込みがありました。

ボランティアのしおり作成

ボランティア学生が不安なく活動に臨めるよう、7月頃から大学独自のボランティアのしおり作成に取り掛かりました。前年度に作成したしおりを元に、実行委員会より報告された変更点や、昨年度の反省を生かし、全体スケジュールや班ごとの心得・動きについて修正・加筆し完成となり、7月19日のオリエンテーションで学生ボランティアに配布しました。

ボランティア オリエンテーション 7月19日(土)

7月19日(土)11時～12時に、B棟1階B109教室で学生ボランティアを対象としたオリエンテーションを行いました。ここでは、ボランティアのしおりを全員に配布し、内容について説明するとともに、活動前に必ずすべてに目を通すよう学生にお願いしました。その他、班分け(暫定)の確認や、班ごとの役割の確認、各班の学生リーダーの選出、ヤフーメールの使用について説明しました。ハネット班の学生は、昨年参加した学生からオリジナル振付のレクチャーを受けました。ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会のスタッフの方々にも助言をいただき、本番へ向け、活動のイメージをつけることができました。

ボランティア直前説明会 8月1日(金)・8月2日(土)

昨年度に引き続き、教職員と学生ボランティアへのオリエンテーションを、日時を変えて別々に実施しました。教職員には8月1日(金)15時～16時にC棟3階N講義室2で行い、学生には前期試験が終了した8月2日(土)10時30分～12時にA棟3階A305教室で行いました。

全体の流れ、バス乗車時間について、また、それぞれの役割および留意点について説明をしました。実行委員会からいただいた“じょっぱり隊ポケットガイド”を教職員に配布しました。

学生ボランティアのオリエンテーションでは、最終的なスケジュール確認や伝達事項の説明を行い、その後、班ごとに分かれて打ち合わせを行いました。ボランティア活動を翌日に控え、真剣な面持ちで臨んでいました。ハネトは車椅子の操作方法についての実演や、大学オリジナル振り付けや隊列について教員から説明を受けて練習をしました。初めてのハネト経験に戸惑う学生もいましたが次第に慣れてきて、全員元気良く、生き生きした表情で練習に取り組んでいました。また、プライマリー・ケアを担当する学生には、担当する参加者情報を伝えました。このことにより、事前に身体状況や生活状況をアセスメントして当日を迎えることができました。

医師・看護師の派遣

ケア付き青森ねぶた実行委員会では、医療班、ケア班の医師・看護師の確保に毎年尽力しています。しかし、各医療機関でも医師・看護師不足である昨今、ボランティア協力もままならないのが現状のようです。

そこで、実行委員会からの要望により、本学の教員が医師・看護師として協力しています。今年度は、医師として渡部一郎教授(理学療法学科)、看護師として木村ゆかり助手(看護学科)にご協力いただきました。



定例記者発表 7月23日(水)

本学が開催する定例記者発表で、ケア付き青森ねぶた出陣について記者の方々にPRしました。ボランティア養成講座を実施して学生ボランティアを募っていることや、この時点でのボランティア参加学生・教職員数を発表しました。

全国の高校進路指導者向けに発行されている「大学新聞」で、ケア付き青森ねぶたをとりあげていただきました。



熱い思いを秘め、ボランティアに参加する学生たち

年齢や障害に左右されることなく、車椅子のまま青森ねぶたに参加したい。障害を抱える人々などのそうした願いを叶えるため、平成8年に発足された「ケア付きねぶた・じよっぱり隊」の活動が注目を集めている。

介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって支えられているこの活動は、今年度で19回を数える。そして、共

催という形でこの取り組みに平成20年から参加し、多くの学生がボランティアとして活躍しているのが青森県立保健大学（青森市）だ。

活動に注力する同大に相談し、参加希望の学生がボランティアアサインドを持って正しく活動できるよう、活動前に2回、ボランティア養成講座を実施している。ボランティアの基本的な姿勢・心構え、昨年までの体験内容と感想、じよっぱり隊の具体的活動内容等について理解を深めるといった内容だ。

祭りに参加することで、閉じこもりがちな高齢者や障害者が若い世代と無理なく交流を図ることが出来る。偏見や障害を乗り越え、活力ある地域社会を創造していくことをテーマとする同活動の発展に期待したい。

誰もが参加できる「ねぶた祭り」を目指して

青森県立保健大学

ボランティア 当日編（8月3日）

運行班

運行班学生は8時に大学を出発し、県民福祉プラザに向かいました。その後、ボランティア決起大会、アトラクション、結団式を経て、プラザ内4階県民ホールの舞台上でオリジナル振付けの最終チェックを行い、昼食・着替えを済ませて青い森公園へ移動しました。ここまでは、不安と期待が入り混じる時間を過ごしていたように思います。そして公園でのイベントや準備等を経て、いよいよ跳人として片側3車線の大きな通りの中央に立った瞬間、多くの観客の視線と対峙するように、何とも言えない緊張感に包まれていたことが印象的でした。運行がスタートしてからは何も言うことはありません。班の皆さんは一瞬で緊張感を吹き飛ばし、参加された方々や周囲の観客と見事に一体感を体現していたように思います。“一体感を体現できた”ということは、準備の段階から終了するまで“ボランティアマインドに溢れた活動ができた”と、いうことだと思います。それで十分です。



備品班

備品班の仕事は、ねぶたの表舞台に立たない地味な仕事に見えるかもしれませんが、しかし、「運行前に参加者の荷物や着替えを預かる」「運行後には確実に相手の元へ返す」という、とても重要で責任の伴う仕事です。そして、荷物の受け渡しの際にも参加者とのコミュニケーションが生まれます。この仕事をとおして、学生達も貴重な経験ができたと思います。

着付け班

あらかじめ着付け練習した職員が、学生の着付けを担当しました。職員の大半が着付け未経験者であるにも関わらず、着付け班の皆さんの応援もあって、スムーズに着付けを終えることができました。

食料班

食料班には10名と学部生、1名の大学院生、4名の教員が参加しました。食料班の主な仕事は、午前中はカレー作り、昼食時間はカレーの盛り付け、午後は唐揚げ、そうめん、おにぎり作り、青い森公園ではおにぎりの配布や、運行から帰ってきた方の打上げ料理の盛り付けをしていました。終日の立ち仕事で、ハトハトになりながらも、イキイキと裏方仕事を頑張っていました。



設営班

設営班の役割は、じょっぱり隊のすべてのイベントがスムーズに進むよう、各会場の設営と設営に必要な備品の運搬および撤収を速やかに行うことです。当日は昼食会場の撤去、使用した部屋の復旧等から始まり公園へ移動後、炎天下の中、大型テントの設営やトラックが到着するたびに物品の搬入・搬出を行うなどか仕事が続きました。学生は、慣れていないテントの設営に戸惑いながらも疲れた表情も見せず、黙々と自ら動き、状況に応じて作業を行っていました。最後に、運行から帰ってきたハネトや参加者に飲み物を配る作業では、飲み物を受け取る人も笑顔でしたが、配っている学生も笑顔だったことがとても印象に残りました。

医療班

1名の参加者を担当させていただきました。参加者とそのご家族とコミュニケーションをとりつつ、診察の付き添いや食事時の観察、脱水予防のための声かけ、ねぶた衣装着付けの手伝いなど、参加者のご家族の身体面・精神面を考慮しながら、ケア付きねぶたを楽しめるよう援助させていただきました（看護学科 木村ゆかり）。

サークル発表

前期試験終了直後で練習時間の確保も大変な中、昨年度に引き続き、吹奏楽サークルが発表を引き受けてくれました。参加者やボランティアの皆さんがねぶた衣装に着替え、続々と青い森公園に到着した後、出陣までの時間を使って、素敵な演奏を披露して盛り上げてくれました。





ボランティア参加者数の推移（人）

	学生	教職員	計
平成 20 年度	49	8	57
平成 21 年度	82	8	90
平成 22 年度	38	16	54
平成 23 年度	72	23	95
平成 24 年度	67	29	96
平成 25 年度	67	32	99
平成 26 年度	66	34	100

ボランティア活動内容

種類	主な役割
運行班 通称: 熱く燃え隊	ねぶた運行の練習や本番で、隊の中心として指揮をとる役割。また、参加者と共に、ハネトとして車椅子を押して参加する役割をします。
医療班 通称: 命預け隊	事前に、参加者の健康チェック・バイタル測定をし、安心して参加できるよう目配りをする役割をします。
ケア班(班担当班) 通称: 仲良くし隊	衣装の着付け時や車両に乗車時等、参加者やボランティアの皆様を誘導する役割をします。
食料班 通称: ごちそうし隊	皆様の食事、昼食や打ち上げの食事準備やテーブルセッティング、配膳等の役割をします。
備品班 通称: なんでも揃え隊	ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引渡しをします。
設営班 通称: 重いもの持ち隊	待機会場の設営、および会場内での誘導等の役割をします。
着付け班 通称: 上手に着せ隊	参加者やハネトボランティアに、ねぶた衣装の着付けをお手伝いします。

ボランティア活動後 編

活動を振り返る会 8月4日(月)

ケア付き青森ねぶたでのボランティア体験を自分だけのもの納得させてしまうのではなく、そこで生じた疑問やうまくできたこと、できなかったこと、何のためにやっていたのかわからなかったこと、感動したことなど、体験したすべてに対して参加した学生みんなまで共有し、意味づけをすることで今後のボランティア活動を発展させたいというのが本会のねらいです。

今年度はねぶた運行ボランティアの翌日に開催しましたが、66名中34名の参加となりました。グループ編成はグループ内に運行班、備品班、食料班、設営班のメンバーが偏らないように配置し、4～6人編成7グループとしました。グループワークの視点は、①各班の活動内容、②活動を通して感じたこと、参加者(家族を含む)のねぶた参加の思い、③ボランティア活動としての“じょっぱり隊”について考えたこと(意義、困ったこと、考えられる改善策など)、④活動を通して学んだこととし、80分間のグループワークの後、各グループの発表と意見交換をしました。

グループワークは飲食可とし、自由な雰囲気で行われ、前日の興奮も冷めやまぬ中、学科も学年も異なるグループメンバーでしたが、大いに盛り上がりました。

発表では、参加者さんやボランティアメンバーと、もっとコミュニケーションをとるべきであった等の反省や、ボランティアは指示されなくても自ら仕事を求めて行動すべきという学び、運行中の安全対策や参加者さんや家族を疲労に配慮した改善策にも意見がおよび、今後の活動を進めていくうえで充実した会となりました。





ボランティア募集 7月10日(木)締切

ケア付き青森ねぶた
じよっぱり隊

八月三日(日)出陣



【ボランティア活動までの流れ(予定)】

- 6月 7日(土) 11:00~12:00 第1回ボランティア養成講座
- 7月19日(土) 10:00~11:00 第2回ボランティア養成講座(※)
- 11:00~12:00 オリエンテーション(※)
- 8月 1日(金) 16:00~17:00 直前説明会(※)
- 8月 3日(日) 終日 ボランティア活動
- 8月 4日(月) 14:00~16:00 ボランティア活動報告会

8月3日ボランティア活動に参加する学生は、(※)は極力参加してください。
(※)の参加が難しい場合は、あらかじめ下記の教職員に相談してください。

看護学科：佐々木、沼田 理学療法学科：長門、橋本 社会福祉学科：廣森、長谷川
栄養学科：清水、乗鞍 地域連携推進課：花田

- ◆申込方法◆ 申込用紙を地域連携推進課まで提出してください。
- ◆お問合せ◆ 地域連携科委員会 ケア付きねぶた部会



Press Release



報道関係者各位

平成 26 年 7 月 23 日
青森県立保健大学

第 19 回ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” 8 月 3 日（日）出陣

I. ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”の活動は、今年度で第 19 回を迎えます。年齢や障害の枠を超え日本の火祭り“青森ねぶた”に誰もが自分らしく祭りを楽しめるように、介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって、全国の障害のある方々のねぶたへの参加を支援します。

第 19 回テーマ『手をつなごう 心をつなごう ねぶたは あなたののために輝く』

出 陣：8 月 3 日（日）

主 催：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会

共 催：青森県立保健大学

II. ボランティア養成講座

本学では、ケア付き青森ねぶたに参加する学生に、ボランティア養成講座（全 2 回）を受講してもらいます。本講座は保健医療福祉（ヒューマンケア）特殊講義Ⅰの単位認定講座とし、大学をあげてボランティア活動をサポートしています。

ボランティアマインドを有する学生が多い本学ですが、いざ行動となると、少しの勇気ときっかけ、知識が必要です。そのために、ボランティアとは何か、ケア付きねぶたの活動概要・意義やねぶたの文化や伝統などについて学びます。

第 1 回 6 月 7 日（土）、第 2 回 7 月 19 日（土）

III. 本学のボランティア参加者

学生ボランティア 61 名、教職員 24 人、合計 85 名が参加します。この他、学生ボランティアが事故なく活動できるよう教職員 9 名によるプロジェクトを 5 月に発足し、サポートしています。

IV. サークル発表

出陣前の待機時間（16:00～17:00 頃）、青い森公園で、保健大学吹奏楽サークルが演奏します。

V. プライマリーケア

平成 24 年度から引き続き、プライマリーケアを実施します。参加者（障害者）、付添いのご家族、ボランティア経験者、本学学生ボランティア（運行班 30 名）がチームとなり、参加者の情報を共有し、参加者をあらゆる角度から見守ります。

チームは、参加者の到着（10:00）から解散（21:00）まで共に行動します。参加者は様々な疾患があるため、学生ボランティアはあらかじめ参加者の疾患に関する情報を学習して臨みます。

問い合わせ*****

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館間 58-1

TEL:017-765-4085 FAX:017-765-2021

担当：地域連携科委員長 出雲 祐二

ケア付きねぶた部会長 長門 五城

事務局地域連携推進課 花田 理江

学生の思い・学び

ボランティア申込み時の学生の思い(申込み順)

学 科	学年	コメント
看護	1	私は秋田県出身で同じ東北の青森県のねぶたに非常に興味がありました。青森県出身の寮生や大学の友達から話を聞き「私も参加したい」という気持ちが強くなりました。また、食料班という裏の仕事を経験し、沢山の人が一つのをやりとげる場面に存在したいと考えています。性別、世代など様々な方と関わることで何かを感じとり、成長したいです。
看護	1	ケア付きねぶたは私にとって大学生活で初めてのボランティア活動です。そして、高校在学中からずっと参加したいと思っていた活動の1つです。ケア付きねぶたに参加し、実際に障害者の方たちとねぶた祭りを楽しんだり、または影と言われている班として、参加者のことを支えたりしながら、よい経験ができたらいいなと考えています。
社会福祉	1	初めての参加なので一生懸命頑張りたいと思います。ねぶた自体見たことがないので、とても楽しみです。周囲のことを考え、自分に与えられたこと以外の仕事を見つけ、積極的にこの活動に参加していこうと考えます。
社会福祉	1	初めてねぶたを体験するので緊張していますが、青森の文化を知りながら保健大学特有の体験ができることに魅力を感じています。毎年参加したいと考えています。青森にいる間の楽しい思い出にしていきたいと思います。
社会福祉	1	今回が初めての参加なので参加者と共に楽しくやりたいです。また、先輩方のやることを見て、自ら仕事を見つけて迷惑にならないように頑張ります。継続して参加していきたいと考えているので今年の行動を振り返り来年以降の活動にいかせるようにしたいと考えています。
看護	1	青森に来たからねぶたの文化に触れたいと思った。地域の人や普段関わりのない人たちと関わりコミュニケーションをとりたい。仕事をしっかりこなしつつ楽しみたい。ボランティアを通して学ぶものがあり、自分自身が成長できると思った。参加した人たちが十分楽しめるよう手助けしたい。
社会福祉	1	青森の文化にふれられる良い機会だと思い、参加したいと思いました。
社会福祉	1	今回は初めてケア付きねぶたのボランティアへの参加なので緊張するかもしれないけど、参加者の方が楽しんでもらえるように頑張りたい。また、参加者との交流を通し、人との触れ合いについてや、どう接すればよいかなどということを学びたい。
社会福祉	1	今回、初めての参加となりますが、参加者の方の皆さんと共にねぶたを楽しむことができたいと思います。この体験が自分を成長させるよい機会となればよいと思っています。

学 科	学年	コメント
大学院	1	せっかくご縁があって大学に在籍させていただいているので学校行事に参加してみたいですし、それが誰かのお役に立てるのであればこんなにうれしいことはありません。ぜひ、よろしくお願いします。
看護	1	今回、自分自身も楽しみながら人の役に立つことができればと考え、ボランティアの参加を希望しました。自分のできることは何か、何を求められているかをよく考え、人の助けとなれるよう頑張りたいと思います
社会福祉	1	私は青森で生まれ育ちました。ですから、青森県外の方や参加したことのない人にねぶたを楽しんでほしいと思います。今回参加する方にねぶたの熱さが伝わるようにがんばりたいです。困ったことがあったら、臨機応変に対応しお手伝いできればと思います。参加する方が笑顔になり、またねぶたに出たいと言ってもらえるように全力で支援します。
栄養	2	去年参加した友人の話を聞いてやろうと思いました。頑張ります。
栄養	2	去年参加していた友達から話を聞いてとても楽しそうだった。参加者の方のサポートをしたいと思った。
看護	1	高校生の頃からケア付きねぶたじょっぱり隊に興味があり、ぜひ参加したいと思っていました。参加される方と積極的にコミュニケーションをとり、ねぶたを楽しんでもらえるように頑張りたいと思います。また、このボランティアを通して私自身も成長することができればと思っています。
看護	2	たくさんの人と関わり合いたいと思います。
栄養	1	これから管理栄養士になるにあたって、栄養指導をする時に、コミュニケーションをとることが必要となる。今回のじょっぱり隊を通じて、初めて出会う人とコミュニケーションをとり、コミュニケーション能力を高めたい。また、青森県民としてねぶたに参加し地元ならではの文化に触れたい。
理学療法	1	県民として地元のねぶた祭りに参加し、多くの方と交流しながら、人との関わり方をより深く学んで、将来に役立てる力を育みたいと考えています。
看護	2	今年が初めてのじょっぱり隊参加です。全国から楽しみに来る参加者の皆さんと一緒に楽しい思い出となるように、一生懸命頑張りたいと思います。参加者の皆さんに来て良かったと思えるようなケアをしたいです。
社会福祉	2	去年は家庭の事情により参加できなかったのですが、今年はぜひ参加したいと思いを希望しました。社会福祉の道に進む者として、このケア付き青森ねぶたじょっぱり隊を通じて、今後活かしていけるものを得られることができればいいなと考えています。また、利用者の方にとって忘れられない思い出づくりのお手伝いがしたいと思っています。
社会福祉	1	自分にできることがあればできるだけ力になりたいと思う。じょっぱり隊が成功できるように精一杯努力したい。

学 科	学年	コメント
看護	1	高校生の時からこのボランティアに参加したいと思っていました。ねぶたに参加して地域の方や他県の方との交流を通して、自分自身の経験値も高めていきたいと考えています。そして青森の伝統ある祭が今年も無事に迎えられるように全力でサポートしていきたいです。特に運行班は隊の中心として指揮を執り、ハネトとして参加するので、よりねぶたや参加者の人たちを身近に感じることができるのでやってみたいと思いました。
看護	1	北海道出身なので今までねぶた祭りを見たことがありません。ねぶた祭りはどういうものなのかとても興味があります。今回、人生で初めて参加できるということがとても嬉しいです。さらに看護科で学んだこと、また自分の特性を生かし、参加者の方々のサポートを行っていきたいです！
看護	1	参加者の方々と一緒に楽しくやりたいです。前から参加したいと思っていました。地域の方や自分と同じ年代の人たちと交流を通し、自分自身のコミュニケーション能力も磨いていきたいと思っています。
理学療法	3	3年目になります。今回も参加者さん、ご家族が楽しめるようにサポートしていけたらと思います。自分自身も楽しんで参加したいです。
看護	1	私はまだ一度もねぶたに参加したことがないので、参加者のみなさんと一緒に楽しみたいと思います。
看護	1	県内者ですがねぶたには初参加するので精一杯楽しみたいです。ボランティアを通して、講義では学べないことも感じられるといいなと思います。
栄養	1	見るのも参加するのも初めてなねぶたまつりをボランティアの方によるこんでもらえるようがんばりながら参加したい。
社会福祉	2	様々な人との交流を通して楽しく自分の学びを深められるようにしたいと思っています。
栄養	2	去年の経験とこれまでの調理実習で学んだことを生かし、参加者の方々に“おいしい”と言ってもらえるご飯を作りたい。
栄養	2	調理実習での経験を生かして食料班で頑張りたいです！
看護	1	たくさんの人たちを楽しくねぶたができればいいと思っています。
看護	1	ねぶたに参加するのは初めてですが、周囲の人と協力しながらみんなで祭りを盛り上げて、障害者の人達も自分達も楽しんでできたらいいなと思います。
看護	1	今回のボランティアがこれからのボランティアのきっかけになればいいと思います。皆で協力し合いながら楽しみたいです。
看護	2	去年も参加してとても楽しかったので今年も参加したいです。
看護	2	初めて参加します。頑張ります。
栄養	1	参加者の皆さんのために精一杯活動したいと思っています。

学 科	学年	コメント
看護	1	入学する以前からじょっぱり隊に興味があり、入学した際にはぜひ参加したいと思い、応募させて頂きました。私はボランティア活動を行いながら充実した大学生活を過ごしています。その中で大学全体で行われるボランティアであるケア付き青森ねぶたじょっぱり隊にハネトとして参加し、ボランティア全体を盛り上げ、参加者の人達に満足してもらい、大成功へとつなげていきたいと強く思っています。このボランティアを今後の生活や自分の将来の夢に活かし、自分の視野を広げていきたいと思えます！
社会福祉	2	昨年は参加することができなかったので、今年はぜひ参加して多くの方々と交流したいと考えています。
看護	1	大学入学する前からケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のことは知っていて、とても興味をもっていたので、迷いなく参加を決意しました。参加者の方々と共に思い切り楽しみながら、ケア付きねぶたを通して多くのことを学び吸収したいと思っています。そして参加者の方々にとっても、また自分にとっても最高の思い出となるようなケア付きねぶたにしたいです。
社会福祉	1	たくさんの人とねぶた祭りを楽しみ共有したい。いい経験になると思う。
社会福祉	1	せっかく青森市にいたので、有名なねぶたに参加して楽しみたいとともに、ボランティアもできるので、良いなあと思いました。
社会福祉	1	ボランティアとしてねぶた祭りに参加するということは、今回が初めてということもあり、不安はありますが、社会貢献したい、青森ねぶた祭りを様々な人にアピールしたいという思いもあります。たくさんの人と関わりをもつことのできる場であるため、一生懸命力添えしたいと思えます。
看護	1	ねぶたは初めてですが、参加者のみなさんと一緒に楽しみたいと思えます。
看護	2	昨年も運行班としてボランティアに参加させて頂き、とても良い経験となったので、今年は昨年の経験を生かし、積極的に行動し、参加者の方々と素晴らしい思い出を作りたいと思っています。
看護	1	入学以前からケア付きねぶたの存在を知り、参加してみたいと思っていました。青森ならではのボランティアに興味があり、楽しみながら様々な方々と交流できたらと考えています。最後まで頑張りますのでよろしくお願い致します。
看護	1	ケア付きねぶたじょっぱり隊に参加することで、ねぶたをたくさんの方々に楽しんでもらい、この経験を通して自分自身を成長させることができると考えています。
理学療法	3	去年出れなかったのが去年の分まで頑張ります。
大学院	1	ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の目標達成のためにはどこでどのような支援のもと動いているのか etc を知る。次年度の目標達成のため必要なことを学ぶ。参加者全員が楽しくこの活動が終了できるようにお手伝いしたいと思っている。

学 科	学年	コメント
看護	1	私は出身が弘前で、弘前ねぶたは毎年見ていますが、青森のねぶたは一度も見たことがありません。私は高校時代、1クラス1台の人形ねぶたを作り、文化祭の1日目に町を運行するという行事に3年間参加していました。その経験があり、ねぶたをみんなで運行することがどれほど楽しいかよく知っています。大学でもいろいろな人とねぶたを運行する楽しさを味わいたいと思っています。また、障害を持つ方々と接する機会が今までほとんどなかったため、色々な方とお話をするとても良い機会になるし、そこから学ぶことも多いと思います。人のためにも自分のためにも今回ケア付きねぶたじょっぱり隊に是非参加したいです。
看護	1	ボランティア活動を通してさまざまなことを学びたいです。人生で一度も参加したことのないねぶたをボランティアを通して味わいたいです。
看護	1	高校生の頃から憧れていました。このケア付きねぶたを通して自分自身成長できればなと思っています。また、青森県の郷土芸能をより多くの人に知ってもらえるようにがんばりたいです。



第1回ボランティア養成講座参加後の感想抜粋

- ボランティアの基本でもある自主性、無償性、利他性、先駆性ということも大事だが、有償ボランティアや自分探し、居場所探しボランティア、感謝されたがりボランティアというのもボランティアにはかわりないので大事だと感じた。しかし迷惑になってはいけない。先生も言っていたように「行動しない善よりは行動する偽善」偽善だとしても人の為にボランティアという行動を起こすことが大事であると感じた。私は昨年じょっぱり隊に参加して貴重な体験ができたのでボランティアにこれからも参加していきたい。
- ボランティアをするときには、相手を助けようという気持ちボランティアするべきだと思ってました。もちろんそれも大事だけど、動機が何かよりも対象の助けになっているかが重要なのだとわかりました。杉山先生が言っていた、「行動しない善より行動する偽善」という言葉を聞いてなるほどなあと思いました。私は行動できる善になりたいです。
- ボランティアする動機は人それぞれでどんな内容でもよいと私は感じていましたが、本当にそれでいいのかなあと思う部分もありました。しかし講義に同じような内容をお話ししていただいたので少し自信につながりました。
- ボランティアへの考え方がしっかりしていて、今まで考えたことのないボランティアという言葉の意味を考えることができた。また、自分はあまりケア付きねぶたに興味はなかったが、今回の体験談を聞いて少し興味を持つことができた。様々なボランティアの形があることを知り、自分もどのような形であれ、今後ボランティアを行っていききたいと感じた。
- ボランティアに参加するにあたり、感謝されたがり、押し付けがましくならないように気をつけようとは思いますが、何よりも行動が大事となるので、ボランティアの結果を見るのではなく、家庭を重要視したいと思いました。じょっぱりねぶたに参加した学生を多く呼んでグループをつくり、話を聞くなどしても楽しそうだと思います。
- 今日はボランティアの定義を知り、いろいろな種類のボランティアがあることが分かった。時には「迷惑なボランティア」もあり、でもそれは動かないよりはいいことで、自分の積極性を向上させる機会になったと思う。また先輩方からじょっぱり隊のボランティア内容もきくことができ、どのような活動をするのか、どのような経験ができるのかイメージを膨らませることができた。
- ボランティアは良いものというイメージが強かったけれど実際はそういうものでもないのだと認識を改めた。そこを承知したうえで活動に参加したいと思った。
- 今までボランティアについて無償性や利他性などの印象しかなかったが、自発性、無償性、利他性、先駆性の4つの基本的な性格があると知った。また、近年ボランティアが多様化していることも知り、もし、私が看護師になったら、専門職として看護の専門性を活かしたボランティアをしたいと思った。私はまだ1回もボランティア活動に参加したことがないが、先輩たちの去年のケア付きねぶたの話聞き、自分の成長のためにもさまざまなボランティアに参加していきたいと思った。そのときは自分の役割を自覚し、ボランティアの集団として積極的に行動したいと思う。
- 私はあまり自発性があるほうではないのですが、今回の講座、ケア付きねぶたの参加を機に自分を変えていきたいと思いました。”自分の為に”や”感謝されたい”という思いがあってボランティアするのいけないことではないし、むしろ行動におこさないほうがダメなことであるということがわかりました。私は高校生のとき、宮城の被災地のボランティアに行ったことがある。そのとき私は、なんのためにボラ

ンティアをするのか、自分の中ではっきりしないまま行ってボランティアをした。私はこのときなんのために行ったかわからないとずっと思っていたが、今日の講座を聞いて、意味があったボランティアだったと確信した。自分の動機が何であれ相手を助けることができるならそれは立派な行為だということを今日の講座で学んだ。

・今日の講座を聞いて、ボランティアに興味を持つことができました。私は今までボランティアに参加したことがありません。人の役に立ちたいというのは思っていたけれどもなかなか勇気が出ませんでした。ケア付きねぶたも出ないと言っていたんですけど、今日のこの講座を聞いてやってみたいなと思ったので、ちょっと考えてみたいと思います。ボランティアをして、いろんな経験もしてみたいと思うし、たくさんの人たちともかかわって、自分を成長させたいし、視野を広げたいと思いました。

・私は高校生のころからケア付きねぶたに参加したいと思っていたため実際に参加した先輩方のお話を聞いて良かった。やはり大変であるとは思いますが、それ以上に学ぶことや得るものが大きいし、自分を成長させてくれると思うので、ぜひ参加したいと思う。

・今までボランティアと聞いて、困っている人に対して無償で何か自分ができる手助けをするというイメージが強かったが、今回の講座で、一緒に何かを楽しむこともボランティアの一つだということを知った。(中略) 仕事でのミスのお話もあって、ボランティアというのはすごく幅広いものだと感じた。

・ボランティアについて改めて深く考えさせられました。助けすぎるのも助けなさすぎるのもダメということです。でも助けずに見過ごすのはもっとダメだと思いました。また自分が助ける側になったとき、相手の気持ちも考えて、援助するべきだと思います。時に自己満足で終わっているときもあるからです。助けるということは本当に難しいと思いました。

・ケア付きねぶたの活動には参加しようと考えているのですが、青森県外の出身のため「ねぶた」というものも詳しくはわからず、どの班を希望するかも迷っていました。少しでも先輩方のお話を聞いて良かったです。ボランティアとしての責任を持って活動しようと思いました。

・今までボランティアのことを善でなければならぬ活動だと考えていたけど、今日の講座で、善悪という軸ではなく、社会性を軸にしているということがわかった。先輩方の話からボランティアはただやるだけでなく、たくさんの人との関わりがあり、楽しむことが大切だと学ぶことができた。

・今回の講座のおかげで、ボランティアとはどのようなものかを理解できたのでよかった。先生の言っていた偽善でもいいから行動に移すという考えには深く共感した。今まで出る気がなかったのだが、しょっぱり隊に参加したいと考えるようになった。

・ボランティアには、様々な種類があることを知ることができたので良かった。ボランティアは、何のため、誰のために行なうものなのか、とても考えさせられた。実際にボランティアを行なう時、他者がどのように考えるかはそれぞれなので、広い考え方が必要だと感じた。

・杉山先生の講演により、今までもっていた「ボランティア」のイメージがかなり変わった。いくら偽善といわれても、何もしないで見ているだけや、言われたことだけをやるということが一番「ボランティア」としてふさわしくないと知った。また、4人の参加学生による体験談では、しょっぱり隊の活動でどのようなことをするのか詳しく知ることができた。

・私は、小学校の頃からボランティアを続けていました。偽善という目で見られることも、余計なおせっかいで失敗することもありました。でもそれ以上に、対象者の方と仲良くなったり、笑顔を見れたりすることがとても嬉しかったです。今回の講義では、そのことを思いながらしょっぱり隊として活動したいと改めて思いました。

・私も小学校のときからチョコボラをたくさんしようと言われていたり、植林ボランティアも行なっていたので、ボランティアに触れる機会が多かったと思います。中学・高校の時もボランティアをやっていましたが、成績に関わるから参加するものもありました。しかし、この講座を聞いて、自主性が大切だと思いました。

・今回の講座を受け、ボランティアには自発性が必要だと感じた。私は、参加者の方に楽しんでもらえるようにお手伝いしたいと思った。先輩の話を聞いた中で、参加者の方と触れあう事で得られることもある。また、触れあう事がなくても何か得られるはずだと思った。ボランティアに参加し、たくさん感じて何かを学びたい。

・私は高校生の時に JRC 部に所属しており、ボランティア活動をしてきました。保健大学に入ろうと決めるときには、ケア付きねぶたの方もやりたいと考えていました。私が今までやってきたボランティア活動は、募金活動がほとんどで、相手の反応を知ることができず、ただやっただけで満足していました。今回の講座を聞いて大切だと思ったのは、「相手のことを考える」です。ケア付きねぶたは役割によって違いますが、相手の反応が見えます。「人を喜ばせるボランティア」として貴重な機会だと思います。私は裏方が良いと思っていましたが、ハネットとしてたくさんの方と交流することも素敵です。自分が今までやってきたことをいかして、楽しいお祭りにすることができるように努力したいです。そして、ボランティアを通して何か見つけることができればと思います。

・ボランティアについて、自分が知らなかったことや気づかなかったことなどを講演を聞いて知ることができた。ボランティアに対する考え方が少し変わった。じょっぱり隊の活動報告を聞いて、どの班にもそれぞれのがりがいがあると思った。ぜひじょっぱり隊に参加して、様々な人と関わり良い経験をしたい。

・今回のボランティア養成講座に参加して、ボランティアの意義というものを再確認できたと思います。私は、ケア付きねぶたへ参加しようかどうか迷っていましたが、杉山先生の講演と、体験談を聞いて、参加してみようという気持ちが強まりました。

・ボランティア=無料奉仕活動だと思っていた。高校生の時、岩手にガレキの掃除に行った時があったが、その時は少しでも被災者のために働きたいなと思って参加していた。しかし、その中には「感謝されたい」とどこかで思っていたかもしれないと今回の杉山先生の話をして聞いた。ケア付きねぶたでは、迷惑なボランティアをしないようにしたいと思う。そのようにならないためには、今の私には理解できないので、これから学んでいかなければいけないなと感じている。

・ボランティア活動に参加するのは今回が初めてですが、やはり自分から動くことがとても大切だと思います。ちょっとした気遣いや、ちょっとした声かけだけでもだいぶ違ってくると思うので、じょっぱり隊として利用者の方を楽しませることができるように努力したいと思います。

・今回の養成講座に参加して、自分自身も出ようという気になりました。高齢者や地域の方々と交流を深めたいと思います。初めてのねぶたなので、楽しめたら良いです。

・今までボランティアの漠然とした概念しか知らず、これまで行なってきたボランティアは本当のボランティアに入るのかと考え直せるきっかけになりました。今回ボランティアについて学んだことで今後自分がどう活動していくのかももう一度考えてみようと思います。

・今回この講義を聞いて、ボランティアについての考え方を再確認することができた。私は今まで多くのボランティア活動に参加してきたが、本当に人の役に立っているのか、また、迷惑をかけていないか不安な所もあった。しかし、何もしていないより、行動に移しているという面に関しては、参加して良かったと思う。そして、ケア付き青森ねぶたに参加し、交流の輪を広げて行きたいと思った。

第2回ボランティア養成講座参加後の感想抜粋

- ・じょっぱり隊の詳しい活動内容を理解することができました。当日までの活動や振り返りまでを含み、一生懸命がんばっていきたいです。
- ・じょっぱり隊の活動内容についてよく知る事ができました。Kさんのエピソードなどをきいて、じょっぱり隊の活動でのリハビリのすばらしさを感じました。ボランティアの際は、相手の立場になって考えて行動することを心がけていきたいと思います。
- ・一人の参加者さんのために多くのボランティアの人が関わっていることがわかりました。喜んでもらうという気持ちは他の人を幸せな気持ちにするものだと思えました。
- ・じょっぱり隊を通してリハビリにつながっている人がいることを知り、ますますじょっぱり隊に参加する意味を確認することができました。参加者の方が安全に楽しく祭りを迎えられるようにサポートしていきたいと思います。
- ・はじめは楽しみたいという思いからじょっぱり隊への参加を希望していました。今もその思いは残っていますが、今回平川さんの講義を聞いて、少し考えも変わりました。まず、自分が主役ではなく、参加者のみなさんだということを頭に入れ、私はそれを全力でサポートしつつ、参加者のみなさんと一緒に楽しみたいと思いました。楽しくやるだけでなく、常に参加者の方の様子をうかがいながら祭りに参加したいと思います。
- ・じょっぱり隊の「じょっぱり」が自己を主張し続けるという意味だということを知りました。じょっぱり隊を機に多くの出会いがあることも知り、すばらしいボランティアだと思いました。じょっぱり隊が運行できるのはたくさんの班、人が関わっているからであるということを実感できた。じょっぱり隊から広がる交流の輪はすごいと思った。Kさんのエピソードを聞き、じょっぱり隊がKさんの世界を広げたのだと感じ、そのような交流がすごい力となるのだなと思った。ケア付きねぶたの力でリハビリが進んだり回復できる人もいる。人を支えることの大きさに改めて気づいた。
- ・じょっぱり隊の活動に関する講話を聞いて、実際に障害者と触れ合う機会があることは今後のためにとっても大切なことだと思った。じょっぱり隊に参加することで、様々なことを学べたらいいと思った。思いやりの心を持ってやるのがねぶたを成功させるんだなと思った。楽しく、元気に、気を配って、がんばりたい！
- ・じょっぱり隊に参加すると決めたものの、詳しくは全く知らなかったのが今日の講義で少し知ることができた。私は食料班希望だ。食料班は、表には出ない仕事だが自分も主役という精神を持ちたい。今回の講座で様々な障害を持つ人々と共にケア付きねぶたを楽しみたいと強く思った。そして障害を持つ人々と交流し、祭りを楽しむことはなかなか経験することはできなく、必ず将来看護師になる過程で役に立つと考えた。
- ・参加者さんとハネトが最初に関わるのは昼食のときだということで、今年のテーマにもあるように、「心をつなぐ」食事を作れるように頑張りたいと思った。去年の経験と調理実習の経験を生かしたい。今回のボランティア養成講座を受けて、じょっぱり隊としての自覚を持ち、参加者の方たちが安心して楽しめるようにサポートをがんばりたいと思いました。
- ・とても勉強になりました。参加者の方の体験がとても印象に残り、じょっぱり隊に参加することに決めてよかったと思いました。車椅子を押しながら跳ねることを想像することができなくて、どのようなこと

をするのかと思っていたけど、実演してくださったので、当日どのように跳ねるのかイメージできた。

「じょっぱり」の単語の意味がわかり、なるほどと思った。参加者さんのエピソードに関わることができればいいと思う。

- それぞれの班の役割がよくわかりました。色々な人のサポートがあってじょっぱり隊が成り立っているんだなと思いました。

- ボランティアを成立させるためには沢山の人の力が必要で、またそれぞれ異なる役割があることがわかった。今年は参加できないが、来年は参加したいと思った。来年参加したときには、参加者さんを喜ばせ、楽しませたいと感じた。

- じょっぱり隊が、参加者さんの人生を変える転機にもなる活動だと知った。来年こそ参加します。ボランティア紹介を見て、さまざまところからねぶたに参加しに来ていることを知りました。遠方から来ていただいた方々に楽しんでいただけるように頑張りたいと思う。車椅子に実際に乗ってみて、少し揺れるため、こわかった。また、とても体力を使うので、当日の体調管理をしっかりとしたい。今回が初めてなので、頑張りたいです。

- 今まで、障がい者になった人としか会う機会がなかったため、VTRのMさんのように障がいを持つ前と持った後、リハビリ前後を見比べることができたのはとてもよい機会だった。今年は、大学生としてよい経験をしたい。

- 今日のボランティア養成講座を聞き、実際の出来事を聞いたり、写真を見ることによって本番がとても楽しみになった。声出しやはね方もとても楽しく、車椅子を使ったものも上手にできた。

その人だけではなく、家族の気持ちや環境も理解することが大切だと思った。また、目の前の状況を理解して、相手の立場から見ることが大切だと思った。じょっぱり隊は、裏方の仕事があってできるものだと思う。

- 今日の講義でじょっぱり隊についてより詳しく知ることができました。ケアつきは、青森だけではなく、全国に広がっているということも知ることができました。じょっぱり隊に参加したことで、リハビリにもつながっている話は、驚きとともに感動しました。今回は参加できませんが、来年はぜひ参加したいと思います。

- 私は運行班に希望したのですが、はねながらの車椅子の押し方など教わることでよかったです。プレーキをかけることや、参加者の様子に気を配らないといけないと改めて思った。参加者と一緒に楽しめるように、全力で頑張ろうと思った。

- じょっぱり隊に参加することを楽しみにしている方がたくさんいることが改めてわかり、じょっぱり隊で活動して参加者さんと楽しみたいと思いました。備品班で積極的に活動したいと思いました。どこかの班が1つ欠けただけでじょっぱり隊は上手く運行していけないことが良くわかった。参加者（付き添いのご家族を含む）にとってステキな思い出になるように、一人一人が責任を持って行動し、臨機応変に動いていかなければならないと感じた。

- 今日のボランティア講座を聴き、昨年私も参加させてもらいましたが、改めて様々な人の協力で成り立っているだなと感じた。食事でソフト食を用意したり、観光の計画を立てるなど、参加者の方が参加しやすく、参加して楽しめるような工夫もされいると感じた。全国に「ねたきりになら連」はあるが、看護師の減少やケアが大変なことからケア付きの活動が減っているということなので、活動が増えていけばいいなと感じた。参加者の方が楽しむことで、付き添いの方にも喜んでもらえると思う。

- 医療専門職を目指している私たちにとって、このような機会ボランティアをできることは恵まれてい

ると思います。個々に学んだ知識で、直接触れ合える機会を青森のねぶたで体験できることを大切にして参加していきたいです。

・じょっぱり隊の活動は、参加者や家族、付き添いの方、ボランティアなど関わる人全員に大きな影響を与えていると感じました。参加することによって新しい人の輪が広がり、ねぶた時期のみならず、その後の交流にもつながる活動と思い、今後も続いてほしいと思いました。参加者本人の症状自体にも影響を与えて、生活が変わり、回復へと向かっていく姿には感動しました。1年の時は運行班として参加して参加者の笑顔やボランティアのやりがい、楽しさなど様々体験することができました。今回は、備品班としての参加のため、周りを良く見て行動し、参加者や運行班の方々が安全に楽しくはねれるように荷物や備品の管理や声かけなどを行なって貴重な体験をできるようにしたいです。



全体スケジュール

平成26年度ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊

直前説明会

日時：8月2日（土）10：30～12：00
場所：A棟3階 A305教室、フジカルイグザミネーションルーム（A305教室隣り）
内容：Tシャツ、シール配布

班の紹介

活動の最終確認
（運行班はフジカルルームでハネトの振り付け練習）

- ・学生ボランティアは全員参加してください。
- ・事前にこのしおりをよく読み、質問などはこの説明会のときにご確認ください。
- ・プライマリーケアの担当者を発表します。参加者の情報を伝えますので、各自、筆記用具、メモ用紙を持参してください。

ねぶた出陣

8月3日（日） …… 2ページ
（場合によっては8月2日午後にボランティアをお願いすることがあるかもしれません。）

活動を振り返る会

日時：8月4日（月）14：00～17：00 …… 15ページ
場所：A棟1階A112教室

青森県立保健大学

学生ボランティアのしおり

目次

全体スケジュール	1ページ
ねぶた出陣（8月3日）のスケジュールと内容	2ページ
ボランティア留意事項	5ページ
ボランティアの心得【共通】	6ページ
ボランティアの心得【備品班】	7ページ
ボランティアの心得【運行班】	8ページ
ボランティアの心得【設営班】	10ページ
ボランティアの心得【食料班】	11ページ
保健大学オリジナルハネト振付	12ページ
緊急時等の連絡先	14ページ
活動を振り返る会の案内	15ページ

	リーダー
食料班	安藤未来、佐藤ななみ
設営班	荒澤隼
備品班	赤井はるか
運行班	松島穂菜美、野月綾乃、山本祐未、篠原直斗、曾津啓太

4. 決起大会

- ・次の時間帯は全員参加です。ただし、各班のリーダーから指示があった場合はそれに従ってください。

9 : 30 ボランティア決起大会（4F 県民ホール）
 10 : 45 アトラクション（同）
 11 : 00 結団式（同）

5. 休憩（食事）

- ・食事や休憩時間は、タイムスケジュールを参照して各自とってください。ただし、食事や休憩に入るときは、必ず代表学生を通じてリーダーに確認をとってください。
- ・お昼は、4階大中研修室でカレーライスが提供されます。各自受け取って、交流会会場（4階大中研修室）以外の場所で食べてください。プライマリーケア担当者は、交流会場で参加者さんと一緒に昼食をとりまわります。参加者さんと同じものを食べます。料理を取り分けるなど、参加者への配慮を忘れないこと。

6. 青い森公園へ移動

- ・県民福祉プラザから青い森公園へ移動する際は、準備のできた人から順次乗車します。各班リーダー、車両班の野月眞理子さんの指示に従って、スムーズに乗車してください。
- ・県民福祉プラザへは戻らないので、自分の荷物をすべて持って移動してください。絶対に忘れ物がないようにしてください。

7. 解散

- ・各班がリーダーの指示により解散したら、各班の担当教員のもとに集合してください。各班が解散しても、勝手に帰らないでください。担当教員が人数確認をします。
- ・モーリーとリンゴ GO、つゆき号、観光バスで大学に戻ります。青い森公園から自分で帰りたい人は、このとき担当教員に申し出てください。
- ・バスは青い森公園東側（日本赤十字社青森県支部付近）に停車しています。事務局花田さんの確認を受けた人から順に乗車してください。
 バス出発時刻 21 : 30、22 : 00、22 : 10
 ※ 各自の乗車時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照
- ・大学に到着したら、担当教員の指示により解散となります。

ねぶた出陣のスケジュールと内容

日時：8月3日（日）

1. 集合時間

- ・モーリーとリンゴ GO、つゆき号で移動します。
 次の時間どおりに集合してください。
 集合場所：管理棟正面
 バス出発時刻：8 : 00、8 : 30
 ※ 各自の集合時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照
- ・モーリーとリンゴ GO、つゆき号、タクシーを使用しない場合は、前日までに各班の担当教員または長門先生、事務局花田さんに連絡してください。
- ・当日になって使用しないことになった場合は、出発の時刻前までに「緊急時等の連絡先」（14ページ）へ連絡してください。
- ・定刻で出発しますので、遅れることのないようにしてください。

2. 福祉プラザに到着したら

- ・1階ロビーで待機してください。別業務の方や来訪者がいますので、私語は控えるようにしてください。
- ・担当教員が出欠確認をします。

担当教員	食料班	清水先生、乗鞍先生
	設営班	橋本先生、佐々木先生
	備品班	沼田先生、長谷川先生
	運行班（全体）	長門先生、廣森先生、事務局花田
- ・全員そろったら、担当教員と一緒に各班の集合場所へ向かいます。

3. 各班での活動

- ・各自、各班心得、タイムスケジュールを確認して動いてください。ただし、タイムスケジュールはあくまでも目安です。実際の行動は、各班のリーダーに従ってください。
- ・各班への伝達事項は、県民福祉プラザ4階大ホール前の受付に設置するホワイトボードを随時確認してください。
- ・各班の代表学生は、各班のリーダーと学生ボランティアの間で連絡のやりとりをしてください。学生ボランティアは、確認したいこと、指示を仰ぎたいことがあれば、代表学生に伝え、代表学生は、まとめてリーダーに確認してください。

ボランティア留意事項

☆ 初対面の合言葉

声高らかに、お願いします。
「ようこそ（青森へ）、ようこそ（じょうばり隊へ）」おもてなしの心をこめて

☆ 秘傳の合言葉

上手くできたら、「じょうばりだからね」、失敗した時にこそ、「じょうばりだものね」、と声に出してみましょう。

◆準備を重ねてきましたが、予定変更や、ハプニングは、このようなイベントにつきものです。また情報が伝わらず、思うような活動が出来ない立ち止まっている方もいるかもしれません。

真剣であれればあるほど、「怒り心頭に発する」場合もあるでしょう。でも、せっかくの出会いを大切に、例えば怒りであってもそのエネルギーは、活動のために向けて欲しいもの。そこで何かトラブル起きたときの合言葉、『じょうばりだからね』をご紹介します。声に出して言いながら、ストレスもだままりもさらりと流して、前進してください。有終完美（終わりはければよし）を目指し、不具合があったにしても、「じょうばりだからね」で、お願いします。

最高のおもてなし、それは、
ボランティアの謙和、
皆さんの笑顔、 女のです

●.....ハネトの皆様へ

運行時は常に＜参加者＞＜付添＞＜ハネト＞3人一組で行動します。ハネトの役割は次の通りです。

1	参加者、付添者（家族）の中には、異外の方もいます。場所や方言等に不便を感じている時は、丁寧に説明し、誘導しましょう。
2	付添いの方がトイレや着替え等で、参加者から離れる時、しつかり交差しサポートしましょう。
3	ねぶたの衣装を身につけ、「じょうばり隊」オリジナルの振り付けで、運行を盛り上げましょう。
4	参加者の皆様は、ねぶたに参加することを楽しみにしています。青森の魅力を沢山紹介し、青森を満喫していただきますように。

<服装・持ち物>

● 服装

- ・上は、大学Tシャツを着用してください（現地で着替えなし）。下はズボンを着用してください。
- ・ソックス、スニーカーを履いてくる。
- ・雨天の場合は、雨がっぱなどを各自で用意する。

● 持ち物

- ・貴重品の管理は各自で行ってください。大金を持ってこない。運行中は浴衣に着替えるので、ボートなどを持参して各自で貴重品管理をしてください。

<その他>

● 体調管理

- ・体調が悪くなったら、早めに担当教員に申し出てください。

● 緊急連絡

- ・体調不良以外にも、困ったことや、わからないことがあれば、担当教員に確認、報告等してください。

● ねぶた終了後、参加者とその家族への対応

- 場合によって、参加者や家族の方からお手紙が届く場合があります。その際にはきちんとお返事を出すようにしましょう。

相談事について

いつでも、どのようなことでも、疑問、不安に感じたら、担当ボランティアのリーダーや教員に聞いてください。やむを得ず参加できなくなった場合は、速やかに「緊急時等の連絡先」に連絡してください。

備品班 心得！

集合場所 4 階小研修室

備品班は、ボランティアの方との協力を心がけて、スムーズに荷物の整えや着付けができるように声をかけあっていきましょう。	
その1	荷物は最小限度にして下さい。持ちながらの作業はできません。
その2	集合場所ではリーダーが受付し、備品班当日の動きを確認します。
その3	それぞれに役割がありますので、体調不良時は、無理をせずに早めにリーダーへの報告をお願いします。
その4	行動するときは、どこに行くのか、伝達し、勝手な行動は控えてください。所在が確認できないときは、あなたを探すこととなります。
その5	わからないときは、自分の判断で行動や回答をせずに、すぐにリーダーへ連絡してください。リーダーに連絡がつかない時は、山口さんへ連絡してください。
その6	1.4 時からの着付けの際、着物の不備や質問等わからない時は、その場を離れず、後回しにせず、すぐにリーダーに連絡してください。
その7	「荷物がなくなつた」等の声が聞かれた時は、一人で行動せずに、そのことを言いに来た方の名前を聞き、その場でリーダーに連絡ください。リーダーがその場に行つて対応します。

★本学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 出陣前後の浴衣と私服の受け渡しでは混み合つて騒然となることもありませんが、落ち着いて相手の名前を確認して確実に受け渡しましょう。
- ◆ ぬぶた終了後、運行班のみさんが浴衣をランリールバッグに入れますが、携帯電話や貴重品の所持品を入れないよう呼びかけるとともに確認しましょう。
- ◆ 他ボランティアから荷物の移動を指示されることもありませんが、不明な場合は場所を確認してから指示を受けましょう。

保健太ボランティア 共通心得！

その1	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 合言葉 トラブルがあっても … 「じょぼりだものね」 良いことがあれば … 「じょぼりだからね」
その2	8月3日の集合場所になっている県民福祉プラザには、シャトルバス、若しくは公共機関を利用し、自家用車、自転車は避けてください。駐車（輪）のお世話は出来ません（解散場所は県民福祉プラザではなく、青い森公園です。）
その3	一人で解決しようと思わず、迷ったらじょぼり隊の T シャツを着ているボランティアスタッフに相談しましょう。変更事項が常にあります。何時の時点の指示が確認しましょう。
その4	運行班になっている方は、ソックス・スニーカーをはいてきてください（本来なら草履ですが、安全と動きやすさを考慮して）
その5	携帯電話が雨に濡れて壊れないように、ジップロックなどの入れ物に入れるなど工夫しましょう。
その6	貴重品の管理は各自で！大金を持ってこない。食事や飲み物は会場が出ます。
その7	所持品の保管は自己責任です。大事なものは持ってこない。また所持品は記名をすること（着替えが壊るので、身に着けるものは、ウエストポーチなどを活用のこと）
その8	体調不良の際には、教員に申し出てください。
その9	ボランティア活動時は、ボランティアであることを心がけましょう。活動時の携帯電話の使用は控えてください。

* 昼食は、4 階大研修室で提供されたカレーを持参し、交流会場（4 階大研修室）以外の場所で行われます。ホールやテラスを利用して食事をしてください。

運行班 心得！

集合場所 4階県民ホール

	わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。
その1	怪我等には十分注意を、もし怪我・体調不良・事故等の場合にはリーダーへ連絡をお願いします。
その2	所持品等については自己管理をお願いします。（学生は駐車しない）
その3	車でお越しの方は県プロ第2駐車場への駐車をお願いします。（学生は駐車しない）
その4	8月3日は解散時刻を22時頃に予定しています。やむを得ず早く帰宅する場合には教員に連絡をお願いします。
その5	天候等の状況によってスケジュール等が変更になる場合があります。その際には随時連絡します。

*退陣後、速やかに着替えをし、バス発車時刻までにバス待機場所に集合してください。

(着替え場所) ハネット … 青い森公園内のテント

ハネット以外 … 県庁北棟5階

※退陣時が21：30以降になった場合は、全員テント。

*衣装については伝統的な着付けで行います。着付け班の指示に従って着用してください。（お腰の丈が長いことは了解してください）

★本学学生ボランティアへの伝達事項★

ハネットグループ

- ◆着替えは13時頃を予定しています。その前に昼食を終えるようにしましょう。
- ◆服装は、履きなれた運動靴とタンクトップの着用（着替えが楽にでき、汗を吸い取ってくれます）をお勧めします。
- ◆運行班だけ浴衣に着替えます。脱いだ洋服、貴重品以外の荷物は備品班に預けることになるので、大きい荷物などを持ち込まないようにしてください。
- ◆着替えは、教員の指導を受けながら各自で行います（着替え場所：女子4階県民ホールステージ下客席）。着付け終了後、着付け班ボランティアに最終確認していただきます。
- ◆14：00までには着替えを終了するよう、ときどき動きましょう。
- ◆浴衣に着替えたら、モーリーのラミネートシートを左胸に貼ってください。

※プライマリーケアを担当する学生は、参加者を一人にしないようタイミングを見て着替えに行ってください。近くのボランティアに必ず声掛けてから離れましょう。

- ◆花笠は、青い森公園に移動したら備品班から受け取ります。
- ◆振り付けは元氣よく笑顔でがんばりましょう。また、隊列は「常に美しく」心掛けましょう。
- ◆運行中は緊急の場合を除き隊列を離れることができません。体調を整えて臨みましょう。また水分をこまめにとりましょう。
- ◆運行中やその前後も参加者の方を一人にしないように十分注意しましょう。持ち場を離れる時は付添さん等に一声かけてください。
- ◆退陣後は、すぐに着替えに入るのはなく、参加者が一人にならないことを参加者と付添に確認してから着替え場所に移動しましょう。そのまま入浴場所に移動する参加者もいるので、お別れの挨拶のタイミングを迷わないように動きましょう。
- ◆退陣後、花笠を青い森公園の回収場所に各自戻してください。
- ◆青い森公園内に設置したテントで、自分の荷物を受け取って着替えをしてください（状況に応じて変更になる場合があります。指示のもと監視態勢に行動してください）。

※プライマリーケアを担当する学生の着替えが優先です。追って参加者が退陣してくるので、急いで着替えて青い森公園に戻り、担当の参加者についてください。

- ◆脱いだ衣装は、テント脇に待機している備品班に返却しますが、その際私物が混じっていないか確認してください。

のほりグループ

- ◆着替えの時間や場所はハネットグループと同様ですが、衣装は、はつぴびなりです。
- ◆運行中、緊急事態やトイレ移動時は、のほりを持って隊列から抜けます。車両班の目印となります。
- ◆のほりはお腹につけて固定し、45度の角度で持ちます。常に横を意識し、そろえて進むように心がけます。
- ◆運行中は、隊列の乱れを修正します。また、カラスハネット等の侵入を防ぎます。
- ◆県庁北棟5階で、自分の荷物を受け取って着替えをしてください。退陣時間が21：30を過ぎた場合は、青い森公園内に設置したテントで着替えます。

クア付き青森ぬぶた “じよぼの隊”

食料班 心得！

集合場所 5 階調理実習室

その 1	必ず手洗いをし、作業に取り掛かりましょう。 むやみに髪など触らず、手指を清潔に保ちましょう。 また、怪我には留意しましょう。
その 2	調理道具は使ったら、片付け。作業台の上は、整理整頓をしながら調理しましょう。 布巾を常備し、汚れば小さいうちに掃除しましょう。
その 3	貴重品、所持品の管理は自己責任です。 大事なものは持ってこない。また、所持品には記名をする。(身につけるものは、ウエス トポーチなどを活用のこと)
その 4	会館駐車場の使用は禁止！！使用できる駐車場は県民福祉プラザ第 2 駐車場のみ です。駐車場のお世話はできませんので、自転車や公共機関を活用しましょう（会館 事務局への問い合わせ 厳禁）（学生は駐車しない）
その 5	食中毒感染予防のため、体調不良の際は、必ずリーダーまたは、教員に申し出てくださ い。
その 6	食材や道具を台車に積みすぎない。荷崩れの恐れがあるので無理に運ばない！！ 何かあったら一人で解決しようと思わず、ボランティアスタッフに相談すること。
その 7	食事時には、おもてなしの心で、参加者・ボランティアさんに積極的な声をかけましょう。
その 8	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 合言葉 トラブルがあれば、「じよぼの隊」 良いことがあれば、「じよぼの隊」

★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆食事を提供する際には衛生的であることに気を付けなければいけません。
- ◆衛生的な調理や盛り付けをするために、以下のことに気を付けましょう。
 - ① 爪は短く切り、マニキュアはしてこない。
 - ② 指輪やブレスレットなどの手指へのアクセサリーはつけてこない。
 - ③ 三角巾、エプロンを持参する。

11

クア付き青森ぬぶた “じよぼの隊”

設営班 心得！

集合場所： 4 階大中研修室

わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。	
その 1	怪我等には十分注意を。もし、怪我・体調不良・事故等の場合には、リーダーへ連絡をお 願いたします。
その 2	所持品等については自己管理でお願い致します。
その 3	8 月 2 日・3 日ともに車でのお越しの方は県プラ第 2 駐車場への駐車をお願いいたします。 (学生は駐車しない)
その 4	8 月 3 日解散予定時刻が 22 時頃を予定しております。ご都合等ある場合にはその前に簡 易でも構いません。帰宅前にリーダーへの声かけ・連絡をお願いいたします。
その 5	天候等の状況によってスケジュールの変更があるので、変更があった場合には随時、連絡を 行いますので宜しくお願いいたします。
その 6	8 月 3 日 交流会から着替えセッティングでの注意事項 大中研修室の仕切りは管理室職員が行います。

★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆物品の移動・運搬やテント設営などの力仕事が多いため、体調を整えて臨んでください。
- ◆服装は動きやすいもので構いませんが、膝をつく姿勢をとることも多いため、膝を保護できる服装が
望ましいです。また、軍手を準備しておくが便利です。

10

by 保徳大学 手踊り隊 Ver.2009

by 保徳大学
手踊り隊

右へ×1歩2歩
3歩おいて

2歩に両手
合せて1歩

右手おいて
左へ回る

左へ×1歩2歩
おいて

2歩おいて
1歩

左手おいて
右へ回る

ラッセウ **ラッセウ** **ラッセウラッセウ** **ラッセウ** **ラッセウ** **ラッセウラッセウラッセウ**

花おいて
おいて

花おいて
おいて

両手を
おいて

両手を
おいて

両手を
おいて

両手を
おいて

両手を
おいて

ラッセウ **ラッセウ** **ラッセウラッセウ** **ラッセウ** **ラッセウ**

2009.7.9 発行

保徳大学 手踊り Ver.2

ラッセ
手を上げて
右足を右へおいて
おいて

ラッセ
「ラ」で両手
右足を戻す

ラッセ
同じく左へ
おいて

ラッ
「ラ」で戻す

ラッセ
両手を上げ、右へ
前へ進む

ラッセ
左へ振りかぶる
前へ進む

ラッセ・ラ
「ラ」で右へ
「ラ」で左へおいて、
おいて

2回おいて
(腕が前進
するときには
腕は振りかぶる)

ラッセ
右へおいて

ラ
左へおいて

ラッセウ
両足揃って
おいて

ラッセウラッセウ!!
両手を前へ
おいて、おいて
おいて、おいて
おいて

緊急時等の連絡先

ケア付きねぶたでの緊急時以外は使用しないでください。当日のみの連絡可能です。

8月3日（日） 以外は通話できません。

長門先生（青）	
事務局花田（赤）	

ケア付きねぶた“じよっぱり隊”の活動を振り返る会

この会は、ケア付きねぶたが終わった後に、ボランティアの学生の皆さんが、それぞれどのような活動をして、それがどのような形で参加された方に提供されていたか、そして、参加者の方に「どう喜んでいただいた」のかを振り返る会です。

“じよっぱり隊”参加者の皆さんはずっと前から、この日を楽しみにしてきました。その方の期待に応えようと、たくさんの方が何ヶ月もの月日をかけて準備をしてきました。ボランティアとして参加された学生の皆さんは、全体がみえない状況の中、参加者の皆さんに喜んでもらえるように、自分のできることを一生懸命考えてやりぬいたと思います。

そこで、皆さんの体験や感動したことを学生全員で共有することで、新たな感動と、ボランティアについての考え方に広がりができると 생각합니다。

また、皆さんの声を“じよっぱり隊”の企画、運営をされている方に伝えることで、次に参加する方やご家族の方、ボランティアの方の活動に貢献できると 생각합니다。

振り返る会は、ケア付きねぶたの翌日に開催します。
興奮さめやらぬ皆さんとお話ができることを楽しみにしています。

日時：2014年8月4日（月） 14:00～17:00
会場：A112 教室

プログラム（参加人数により、時間を変更することがあります）

14:00～14:10 オリエンテーションとグループ分け

*グループは、当日おしらせします。

14:10～15:30 グループ内での話し合い

（活動内容、参加者の反響、困ったこと、改善のための提案など）

15:30～16:50 各グループの発表

16:50～17:00 まとめ

*参加できない方は、m_sasaki7@auhw.ac.jp（看護学科 佐々木）まで、早めにお知らせください。

報告会班（通称：振り返り隊） 看護学科 沼田・佐々木

参加者一覧

運行班 (付き添いグループ)		
1	保健大学	上泉 和子
2	保健大学	馬場 忠彦
3	保健大学	リボウィッツ よし子
4	付添い17	行田 涼香
5	付添い38	松島 穂菜美 (リーダー)
6	付添い40	野月 綾乃 (リーダー)
7	付添い48	佐藤 友美
8	付添い49	内田 千夏子
9	ハネト1	渡邊 咲良
10	ハネト2	和田 春奈
11	ハネト3	山本 祐未 (リーダー)
12	ハネト4	齋藤 涼花
13	ハネト5	小竹 沙織
14	ハネト6	高橋 郁美
15	ハネト7	大澤 由美子
16	ハネト8	千葉 葉美
17	ハネト9	佐藤 綾香
18	ハネト10	北山 桃華
19	ハネト11	丸山 紗代子
20	ハネト12	矢澤 桜
21	ハネト13	成田 智亜希
22	ハネト14	中山 美優
23	ハネト15	荒木 珠美
24	ハネト16	藤本 桃可
25	ハネト17	逢坂 美穂
26	ハネト18	藤内 美希
27	ハネト19	藤田 瑞穂
28	ハネト20	三浦 梨奈
29	ハネト21	三ツ倉 真紀
30	ハネト22	齋藤 舞
31	ハネト23	高杉 愛花
32	ハネト24	小寺 みのり
33	ハネト25	武田 蘭
34	ハネト26	倉橋 陽子
35	ハネト27	山口 真依
36	ハネト28	佐藤 恵
37	ハネト29	近 汐音
38	ハネト30	近江 菜月
39	部会	長門 五城
40	部会	廣森 直子
41	事務局	花田 理江
42	隊列	千葉 敦子
のぼり・大うちわ・ 拡声器・給水グループ		
43	のぼり3	鈴木 孝夫
44	のぼり4	藤田 修三
45	のぼり5	出雲 祐二
46	横断幕	ロバート・リボウィッツ
47	横断幕	バリー・カヴァバ
48	のぼり6	高谷 憲
49	のぼり7	工藤 透
50	のぼり8	今野 審
51	大うちわ1	笠原 達矢
52	大うちわ2	永井 肇
53	医療用リヤカー	徳原 直斗 (リーダー)
54	給水車	岡田 彩子 (兵庫県大)
55	給水車	清野 夏希
56	給水車	南場 千佳
57	給水車	本間 ゆかり
58	医療用リヤカー	會津 啓太 (リーダー)
医療班		
59	渡部 一郎	
60	木村 ゆかり	
61	角濱 春美	

備品班	
62	赤井 はるか (リーダー)
63	東 優子
64	花田 菜理
65	成田 都和
66	米田 七海
67	坂頂 桜
68	長谷川 真理子 (部会)
69	沼田 祐子 (部会)
70	福井 幸子
71	吹田 夕起子
72	佐藤 穂菜美 (実習生)
73	三瓶 耀子 (実習生)
74	山田 千紘 (実習生)
着付け班	
75	石塚 ともみ
食料班	
76	遠藤 爽
77	安藤 美来 (リーダー)
78	蝦名 宏美
79	佐藤 ななみ (リーダー)
80	藤田 絵美理
81	木村 歩美
82	畠山 日菜子
83	堀越 春香
84	本間 郁美
85	櫻井 南奈
86	佐藤 千尋
87	乗鞍 敏夫 (部会)
88	清水 亮 (部会)
89	吉岡 美子
90	片岡 沙織
設営班	
91	工藤 勇人
92	荒澤 隼 (リーダー)
93	小清水 兼太
94	本木 達也
95	橋本 淳一 (部会)
96	佐々木 雅史 (部会)
97	千葉 茜
98	遠藤 友代
99	佐々木 侑子
100	岩淵 恒子
101	永澤 芽衣
その他	
	吹奏楽サークル (9人)

ケア付きねぶた部会の活動概要

- 第1回：5月23日（金）13時～14時
- 第2回：6月 6日（金）13時～14時
- 第3回：7月11日（金）13時～14時15分
- 第4回：8月 1日（金）16時～16時40分
- 第5回：9月 1日（月）10時～

- ① ボランティア募集
5月から7月までの間で、ポスター、チラシ、掲示板、会議での周知等を図り、ボランティアを募集しました。
- ② サークル発表の調整
本学の文化系サークルに声掛けして、発表してもらうサークルの調整を行いました。
- ③ ボランティア養成講座の実施
6月7日（土）に第1回ボランティア養成講座、7月19日（土）に第2回ボランティア養成講座を開催しました。
- ④ オリエンテーションの実施
7月19日（土）11時から、ボランティア参加学生対象のオリエンテーションを開催し、しおりの配布・説明、班分け・役割の確認、連絡系統の確認等を行いました。
- ⑤ バスの手配
ボランティアに参加する学生・教職員の移動手段を確保するため、大学のマイクロバスの他、三八五観光タクシーの協力により大型観光バスを手配し、ピストン移動などの調整を行いました。
- ⑥ しおりの作成
学生ボランティアのしおりを作成し、スケジュール調整、移動経路等の調整、留意事項、緊急連絡先等を収めました。
- ⑦ 事前説明会の実施
8月1日（金）15時から教職員対象、8月2日（土）10時30分からボランティア参加学生を対象とした事前説明会を開催しました。学生からは、事前に配布したしおりをもとに質問を受け付けたり、教職員には当日スケジュール等について説明しました。
- ⑧ 部会委員の参加
部会委員が各班の担当者となり、円滑にボランティア活動を行えるよう、実行委員会と学生・教職員との橋渡し役をしました。また、各班に部会委員が配置することで、万一のときの連絡体制がとてもスムーズでした。
- ⑨ 学生の識別
活動当日、たくさんのボランティアの中で本学の学生を識別できるよう、参加ボランティア学生全員に、本学オリジナルTシャツ、防水加工したステッカーを作成、配布しました。学生リーダーや本学役職者のシールを色別に分けました。

⑩ 医師・看護師の派遣

実行委員会からの要請により、医師1名、看護師1名を派遣しました。

⑪ プライマリー・ケア担当学生

実行委員会と協力し、プライマリー・ケアを担当する学生には、事前に参加者情報を確認させ、自分が担当する参加者さんについて知ってもらいました。

⑫ カメラマン

本学が委託する広報カメラマンに撮影を依頼しました。

⑬ 活動を振り返る会

8月4日（月）に、活動を振り返る会（報告会）を開催しました。



平成 26 年度

地域連携科委員会部会 ケア付きねぶた部会

看護学科 助 教 佐々木 雅史

助 手 沼田 祐子

理学療法学科 助 教 長門 五城

助 教 橋本 淳一

社会福祉学科 講 師 廣森 直子

助 教 長谷川 真理子

栄養学科 講 師 清水 亮

助 教 乗鞍 敏夫

事務局

地域連携推進課 総括担当 工藤 透

主 事 花田 理江



発行：ケア付きねぶた部会

平成26年10月